

整形外科

<整形外科研修の受け入れ可能期間>

1～6 か月（4～24 週）で設定することが可能である。

（研修期間により修得できる技術が異なるが 3 ヶ月間以上が望ましい）

<診療科の特色>

①救急外傷 ②脊椎外科疾患 ③関節外科疾患の 3 つの柱を中心とした整形外科の診断・手術・周術期管理を修得することが可能である。特に整形外科では身体所見の診察法からレントゲン・CT・MRI などの画像診断まで幅広い診療能力を修得することが重要である。

① 救急外傷

当センターでは交通外傷や災害外傷を中心に年間 4000 件以上の救急車を受け入れており、うち約 400 件が整形外科の救急外傷である。

救急外傷による骨折などの手術件数は年間約 250 例である。

② 脊椎外科疾患

椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、脊髄腫瘍などに対する脊椎手術を年間約 80 例行っている。

③ 関節外科疾患

変形性関節症に対する人工関節置換手術や骨切り手術を年間約 100 例行っている。

<研修の人数>

原則的に 1 期間 1 名とする。

<研修到達目標>

研修期間ごとに到達すべき目標を示す。

A; 1～3 ヶ月間 A+B; 3～6 ヶ月間 A+B+C; 6～10 ヶ月間

①診療

A) 救急医療において外傷の初期診断を行う。

A) 外傷・骨折に伴う全身的、局所的症状・治療の基礎を理解する。

A) 救急医療において外傷の基本的な処置を理解する。

B) 関節疾患の関節可動域、筋力など基本的な診察をする。

B) 神経学的観察によって脊髄神経症状の高位を診断する。

B) レントゲン・CT・MRI の画像所見を指導医のもとに読影・診断する。

C) 整形外科疾患に対する理学療法を指示する。

C) 整形外科慢性疾患に対する自然経過と病態を理解する。

②検査・処置

A) 救急外傷に対する創傷処置

A) 救急外傷にともなう骨折の整復

B) 骨折・捻挫に対するギプス固定

B) 救急外傷にともなう脱臼の整復

B) 骨折に対する直達牽引

C) 脊髄造影・脊髄神経ブロック

C) 関節穿刺注入

③手術

A) 手指の外来手術

A) ワイヤー固定による小骨折手術

B) プレート固定による四肢骨折手術

B) 開放性骨折の手術

C) 脊椎外科手術

C) 関節外科手術

<整形外科週間予定>

手術日は火・金曜日であるが、外傷（骨折など）が多いため手術日以外の日も手術を行なっている。研修医は原則すべての整形外科手術に参加する。

救急外来は随時受け付けており、研修医は原則すべての整形外科救急患者の診察を行う。

月曜日	午前	8:30～9:00	ミーティング
		9:00～	病棟回診・包帯交換・消毒
	午後	13:00～	脊髄造影・神経ブロック検査・関節造影検査 臨時手術
		17:00～	レントゲンカンファレンス
火曜日	午前	8:30～	予定手術
	午後	13:00～	予定手術
	17:00～	レントゲンカンファレンス・手術症例検討会	
水曜日	午前	8:30～9:00	ミーティング
		9:00～	病棟回診・包帯交換・消毒
	午後	13:00～	臨時手術
		17:00～	レントゲンカンファレンス
木曜日	午前	8:30～9:00	ミーティング
		9:00～	病棟回診・包帯交換・消毒
	午後	13:00～	脊髄造影・神経ブロック検査・関節造影検査 臨時手術
		17:00～	レントゲンカンファレンス
金曜日	午前	8:30～	予定手術
	午後	13:00～	予定手術
	17:00～	レントゲンカンファレンス	